

農作業コツのコツ

【第10号】
令和2年6月27日
福光農業改良協議会
砺波農林振興センター南砺班
福光農業協同組合 営農部

早生

五百万石は生育が過剰気味です。慎重な穂肥対応と適切な水管理を行きましょう。

中生・晩生

中干し後は間断かん水を行きましょう。急激な田干しは避けましょう。

水稻の生育は、田植え以降、高温傾向で推移しているため、早生品種で平年より1～2日程度早く、茎数が多くなっています。コシヒカリ、てんこもりは、草丈が平年より長くなっています。各ほ場の生育状況等を確認し、**水管理**や**穂肥施用**等の栽培管理を適切に行いましょう。また、カメムシ類の発生を抑制するため、畦畔等の**草刈り**を徹底しましょう。

水稻の生育状況

(6月23日：福光農業改良協議会 良質米実証田生育調査結果)

品種名	田植日		草丈(cm)		株当たり茎数(本)		葉齢(葉)		葉色		幼穂形成期		
	R2	平年	R2	平年	R2	平年	R2	平年	R2	平年	R2	平年	
とみちから	5/3	5/3	62.0	55.7	27.7	25.9	11.5	10.7	4.4	4.3	6/24	6/25	
五百万石	5/4	5/3	51.9	49.5	23.3	19.7	11.7	11.4	4.2	4.4	6/25	6/27	
コシヒカリ	5/15	5/13	52.7	45.6	23.6	22.3	10.1	10.0	4.2	4.3		7/10	
てんこもり	5/8	5/8	43.4	40.0	27.9	34.0	10.9	10.8	4.3	4.3		7/13	
密苗	コシヒカリ	5/17	5/14	46.2	35.9	20.5	29.2	9.6	9.8	4.2	4.3		7/13
	てんこもり	5/10	5/10	41.6	35.0	31.0	37.5	10.7	10.3	4.3	4.2		7/13

調査筆数：とみちから3筆 五百万石2筆 コシヒカリ3筆 てんこもり2筆 密苗コシヒカリ4筆 密苗てんこもり2筆

水稻

1 穂肥施用

(1) とみちから

①**肥効調節体系** (基肥：LPs とみちから専用) の場合

・原則、穂肥の施用は不要です。

・ただし、**葉色4.2**を下回ったら直ちに**追肥3号**を10a当たり**7～10kg**施用 (草丈が長い場合は減肥) しましょう。

②**分施肥体系** (基肥：基肥555) の場合

1回目の7日後、及び2回目の7日後に追肥3号を10a当たり15kg施用しましょう。

(2) 五百万石

①**肥効調節体系** (基肥：LPs 五百万石専用) の場合

原則、穂肥の施用は不要です。

②**分施肥体系** (基肥：基肥555) の場合

必ず幼穂長を確認し、**1回目穂肥は幼穂長10mm頃** (5月4日田植えで6月30日頃) に施用しましょう。

○五百万石の穂肥施用の目安

施用時期	1回目	2回目	1回目穂肥時の目安	
	幼穂長10mm時	1回目の7日後	葉色	茎数
10a 当たり施用量 (使用肥料： 追肥3号)	13kg	15kg	3.8～4.0	20本/株

※1回目施用時に葉色が濃い場合は施用時期を遅らせ、茎数が多い場合は施用量を減らしましょう。(詳しくは各地区の営農指導員にお問い合わせください。)

2 水管理

(1) とみちから、五百万石

・出穂期まで溝や足跡に水が残る程度の湿潤状態を保つ**飽水管理**を行きましょう。

・ただし、過剰籾数による品質低下を防ぐため、葉色が濃い、茎数が多いほ場では 当面の間、**間断かん水**を続けましょう。

(2) コシヒカリ、てんこもり、直播

・中干し後は**間断かん水**を行い、幼穂形成期頃までに田面の硬さは足跡の深さが3cm程度となるようにしましょう。

・葉色が濃い、茎数が多いほ場では、**落水期間が長めの間断かん水**を実施しましょう。

3 病害虫防除

(1) 斑点米カメムシ類

斑点米カメムシ類が平年より多く発生しています。

カメムシ類の発生を抑制し、斑点米の発生を低減させるため、水田周辺の畦畔や雑種地等での**草刈り**を徹底しましょう。

○斑点米カメムシ類の発生状況

	R2	平年
発生地点率	100%	81%
平均頭数	13.8頭	6.9頭

6月23日雑草地におけるカメムシ類生息密度調査
(調査地点数：11)

除草のポイント

①カメムシ類が繁殖しやすいイネ科雑草(写真)の穂が出ないように草刈りに努めましょう。



②カメムシ類の侵入を助長しないようほ場内のノビエやホタルイ等の除草を徹底しましょう。

中後期除草剤の散布は早めに

収穫前使用日数に注意し、早めに散布しましょう。

※バサグラン粒剤 収穫60日前まで
クリンチャーバスME液剤 収穫50日前まで

一斉草刈り日 7月4日(土)、5日(日) 【草刈り運動期間 7月1日~10日】

(2) 随時防除

- ・ **葉いもち、紋枯病**の病斑がみられたら、下表に準じ防除しましょう。
- ・ 紋枯病は、早生品種や「てんこもり」、前年発生が多かったほ場での防除を徹底しましょう。防除適期は、早生品種が出穂14日前頃、「てんこもり」が出穂7日前頃です。

病害虫	防除薬剤名	防除時期	使用時期	使用回数	10a 当たり散布量
葉いもち	ブラシン粉剤 DL	病斑を見つけたら直ちに	収穫7日前まで	2回以内	3~4kg
	ブラシンフロアブル				60~150ℓ(1,000倍)
紋枯病	バリダシン粉剤 DL	穂ばらみ期(幼穂形成期から10日後頃)	収穫14日前まで	5回以内	4kg
	バリダシン液剤 5				60~150ℓ(1,000倍)

大豆

1 培土

- ・ **必ず培土**を2回行いましょう。
- ・ 出芽が不揃いのほ場では、生育の早い株に合わせて中耕を行い、培土の高さは低めにしましょう。

○培土の時期と高さの目安

- 1回目は本葉2~3葉期 → 子葉が隠れるまで
- 2回目は本葉4~5葉期 → 初生葉が隠れるまで

2 雑草防除

- ・ 2回の培土を確実にを行い、雑草の発生を抑えましょう。
- ・ 培土後に雑草がある場合は、早めに除草剤を散布しましょう。

対象雑草	除草剤名	使用時期	使用回数	10a 当たり散布量
イネ科雑草	ポルトフロアブル	イネ科雑草3~10葉期 ただし、収穫30日前まで	1回	薬液200~300mℓ ／希釈水量100ℓ
畑地1年雑草(イネ科を除く)	大豆バサグラン液剤	大豆2葉期~開花前 ただし、収穫45日前まで ※高温が続く場合や湿害等で生育不良の場合は使用を避ける。	1回	薬液100~150mℓ ／希釈水量100ℓ

降雨後にほ場を確認！ 停滞水がないよう溝の手直しを行いましょう。